

平成 25 年度 ひきこもり対策推進事業委託業務

ひきこもり対策推進事業
状 況 報 告 書

公益財団法人北海道精神保健推進協会

はじめに

当財団では、平成 21 年度から「ひきこもり対策推進事業」を北海道より受託し『北海道ひきこもり成年相談センター』を設置し、第一相談窓口としての機能を果たすとともに、関係機関とのネットワーク構築及び一般市民に対する普及啓発を行ってきた。

相談開始以来、年々相談者は増加しており、ひきこもりに関する関心度の高まりや「相談できる場所」として認知されてきていると感じている。

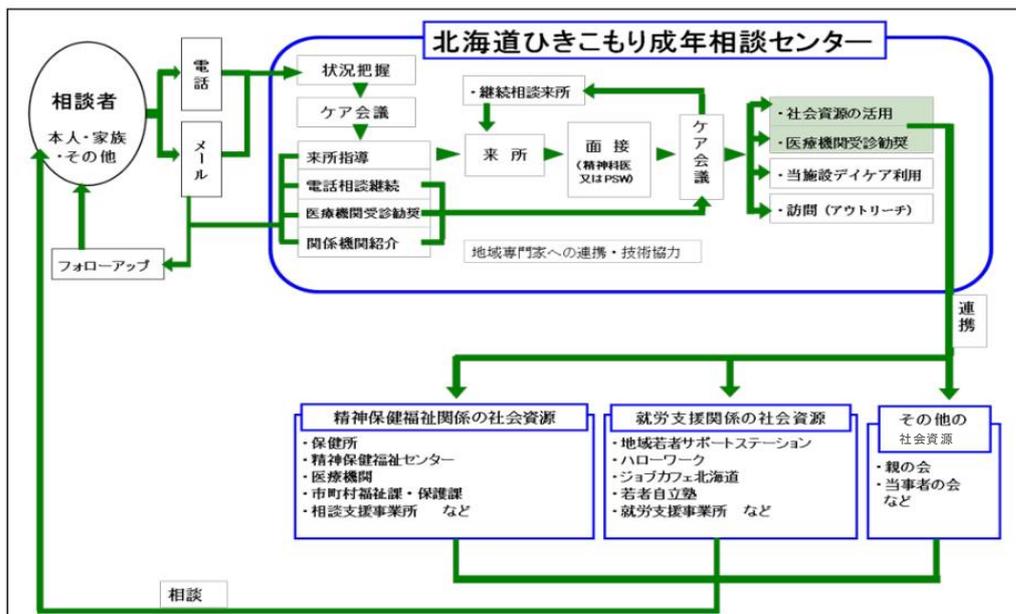
一方で、過去にいくつかの機関に相談はしたものの、状況に大きな変化がなくそのまま経過し、疲弊しているケースもあり、“長いひきこもりに苦慮している道民”もいることを実感している。

ひきこもり相談においては、一つのケースに複数の問題が重複しているなど複雑かつ困難なケースも多数存在し、状況に応じた多様な支援の手段が必要である。

ひきこもりに対する支援は、年単位にわたる長期の支援が必要になる覚悟を持ち、各ケースのペースを尊重しつつ、動きだすタイミングを待ち、支援を途切らせずに取り組むことが必要と考えている。

なお、平成 25 年度は、ケースの状況に合わせて当事者のみならず支援者へ向けたアウトリーチによる支援も実施している。具体的な実施状況は次のとおりである。

図 1 相談支援の流れ



1. 相談支援実施状況

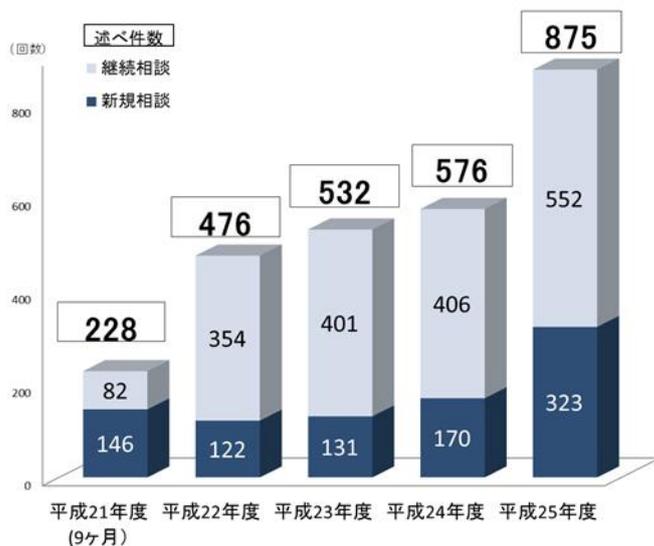
当施設では、平成21年7月1日からひきこもりの相談事業を開始している。
平成25年度の支援実績は以下のとおりである。

(1) 相談支援件数

ア. 相談件数 (単位:回)

相談件数計	875
新規相談	323
継続相談	552

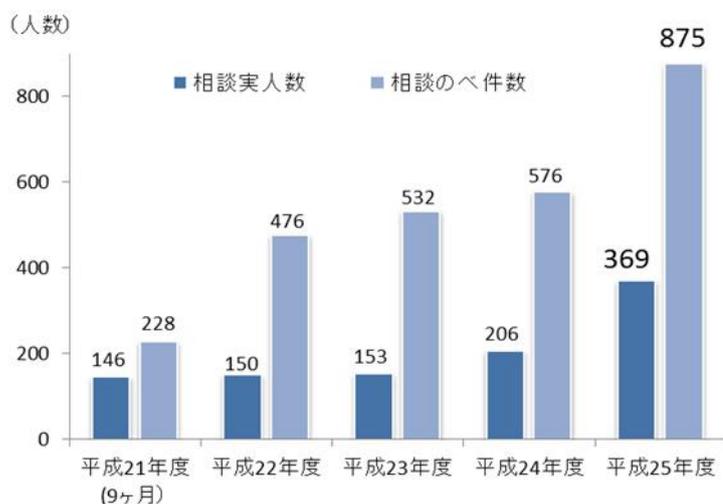
図2 相談件数の推移(年度別)



○当年度の相談件数は、875件であり、平成21年度より相談述べ件数は毎年増加している。
新規相談者は今年度323名であり、ひきこもり相談が求められていることがわかる。

イ. 相談者数

図3 相談延べ件数と実人数（年度別）



○平成21年度から平成24年度までの相談実人数は150名程度であったが、平成25年度の相談実人数は、360名を越えている。

（※相談実人数は、新規相談者に加え、前年度から継続している者も含まれる。）

ウ. 相談方法

（単位：回）

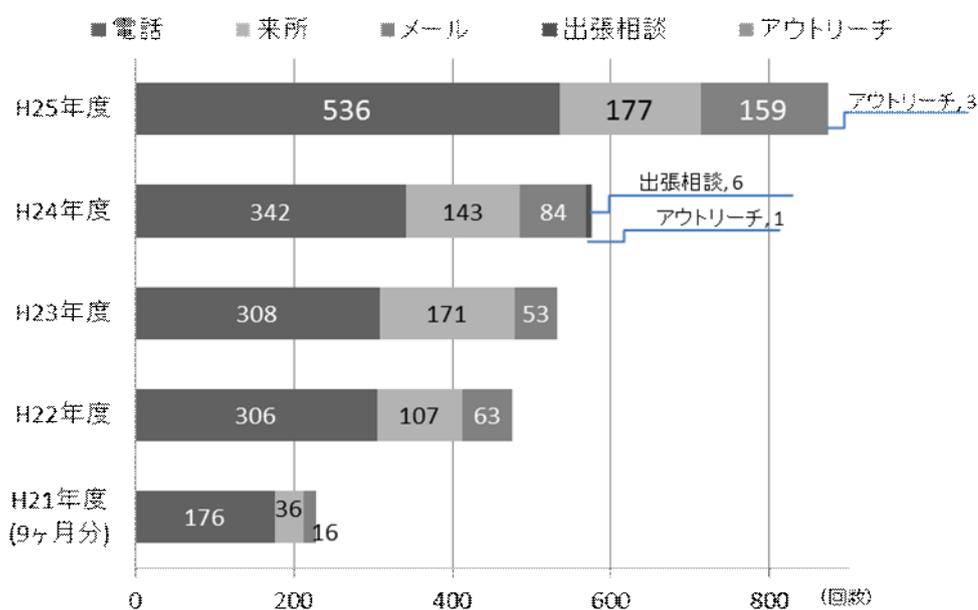
	新規相談	継続相談	計	構成比 (%)
電話	295	241	536	58.8
来所	14	163	177	19.4
メール	12	147	159	17.4
アウトリーチ	2	1	3	0.3
小計	323	552	875	
連携	—	34	34	3.7
ケア会議	—	3	3	0.3
小計	0	37	37	
計	323	589	912	100%

（※相談方法に連携、ケア会議を含む）

（※アウトリーチは相談者宅への訪問のほか、関係機関を訪問して実施した検討会を含む）

○主な相談方法は「電話」による相談である。電話相談後、来所相談につながっている。

図4 相談方法別件数（年度別）



エ. 相談時間

相談方法別相談時間区分件数

(単位:回)

	0~ 15分未満	15~ 30分未満	30~ 60分未満	60分以上	合計	延べ相談 時間 (時:分)	平均 所要時間
電話	196	149	160	28	533	213:01	24分
来所	1	13	10	153	177	235:55	1時間20分
メール	83	40	31	5	159	47:02	18分
アウトリーチ	0	0	1	2	3	4:35	1時間32分
連携	22	14	1	0	37	7:40	14分
ケース検討	0	1	2	0	3	1:20	27分
計	302	217	205	188	912	509:33	34分

(2) 電話相談

延べ回数	実人数
533 回	335 名

(3) 来所相談

延べ回数	実人数
177 回	79 名

(4) メール相談

延べ回数	実人数
159 回	20 名

※延べ回数はメール受信及び返信の回数

(5) アウトリーチ

延べ回数
3 回

○平成 25 年度では関係機関に向けたアウトリーチによる相談支援を 2 回実施した。

なお、当事者へのアウトリーチ相談（1 回実施）は、相談者と支援者間の信頼関係を築いた上で慎重に実施している。

(6) 連携状況

(単位:回)

連携先	件数	構成比 (%)
精神保健福祉センター	9	24.3
地域若者サポートステーション	7	18.9
保健所	5	13.5
医療機関	5	13.5
ひきこもり支援団体	4	10.8
市役所・役場	3	8.1
若者支援総合センター	2	5.4
生活・就業支援センター	1	2.7
介護支援専門員	1	2.7
計	37	100

(7) 相談者の状況（新規初回相談）

ア. 相談者内訳 (単位:回)

	件数	構成比 (%)
本人	69	21.4
父・母	149	46.1
配偶者	3	0.9
兄弟姉妹等	38	11.8
その他	61	18.9
不明	3	0.9
計	323	100

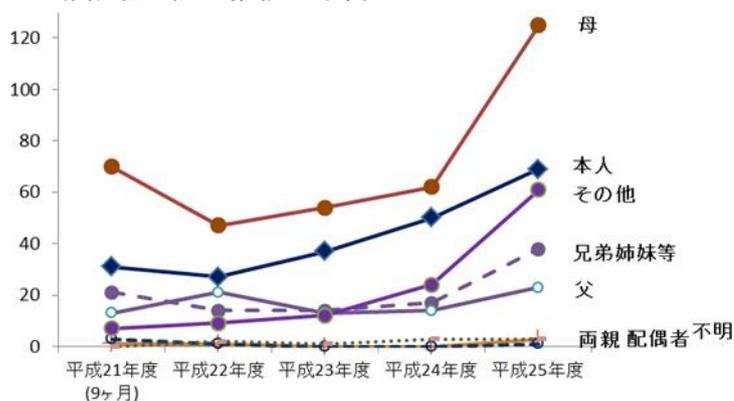
○主な相談者は「父・母」や「本人」であり、全体の73.2%をしめる。

○「その他」は、関係機関職員、祖父母等の親族、知人などからの相談であった。

イ. 相談方法別相談者内訳 (単位:回)

	電話	来所	メール	アウトリーチ	総計
本人	62	1	6	0	69
父	22	1	0	0	23
母	117	6	2	0	125
配偶者	3	0	0	0	3
両親	0	1	0	0	1
兄弟姉妹等	35	0	3	0	38
その他	54	5	0	2	61
不明	2	0	1	0	3
計	295	14	12	2	323

図5 相談者内訳の推移（年度別）



○平成25年度は「母親」からの相談件数の増加が目立つ。

(8) 当事者の状況

ア. 当事者の年齢

(単位：人)

	男	女	不明	計	構成比 (%)
20 歳未満	22	3		25	7.7
20 歳以上～29 歳未満	66	25	1	92	28.5
30 歳以上～40 歳未満	55	21		76	23.5
40 歳以上～50 歳未満	34	15	1	50	15.5
50 歳以上～60 歳未満	10	3		13	4.0
60 歳以上	4	2		6	1.9
不明	10	15	36	61	18.9
計	201	84	38	323	100

○「20代」が92名(30.9%)と「30代」が76名(23.5%)を合わせて、56.4%となり、ひきこもり当事者の半数以上を占める。

○最少年齢は13歳、最高年齢は79歳となっており、男性の平均は32.4歳、女性の平均は33.4歳、全体平均は32.7歳であった。

○「不明」には、問い合わせなどで当事者が確定しない相談が25件あった。

図6 当事者の年齢区分・性別状況

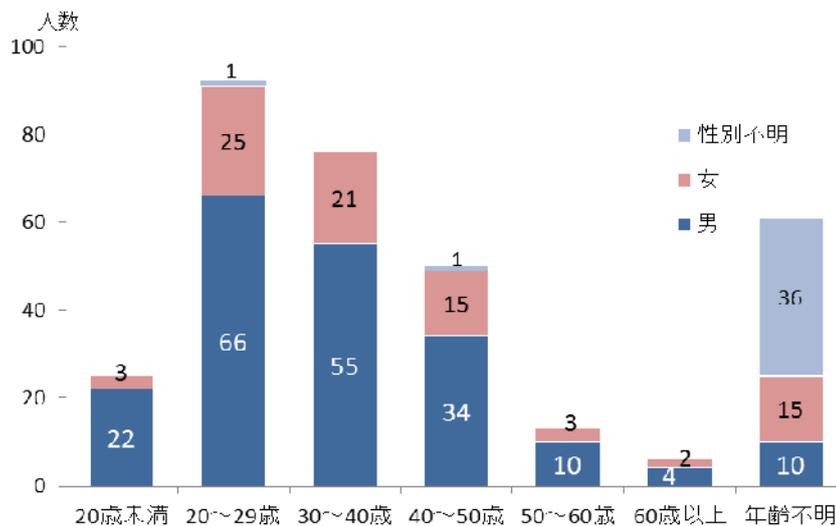
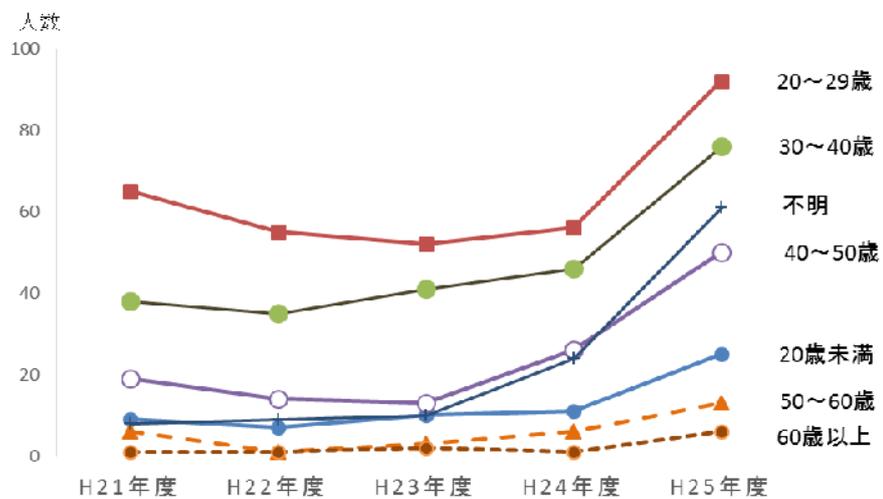


図7 当事者の年齢区分別相談件数（年度別）



イ. 当事者の居住地

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
石狩 (うち札幌市)	16 (13)	15 (10)	15 (14)	14 (13)	36 (34)	17 (15)	12 (11)	11 (10)	15 (12)	21 (15)	7 (4)	8 (7)	187 (158)
後志	2		3		3	1	3						12
空知			1	2	3	4		1	1			1	13
胆振			2		4	3			1		2	1	13
日高				1		2							3
渡島								1					1
上川	1	1		1	3			3					9
宗谷	1			1		1		1					4
オホーツク	2	1			2	1				1	1		8
十勝			1		2				1			1	5
釧路			1					1				1	3
根室								1			1		2
道内(市外)		2			1		1			2	2		8
道外	1	1	2		1		1		2	1			9
不明		1	3	4	14	4	5	6	3	2	2	2	46
計	23	21	28	23	69	33	22	25	23	27	16	13	323

○平成 25 年度の相談のうち約 4 割は道民からの相談である。石狩圏域からの相談者は 187 名(62.8%)で、うち 29 名が道民であった。

○宗谷圏域、根室圏域など遠隔地を含め全道各地から広く相談が寄せられている。

○「不明」には、問い合わせなどで当事者が確定しない相談が 25 件あった。

図 8 当事者の居住地

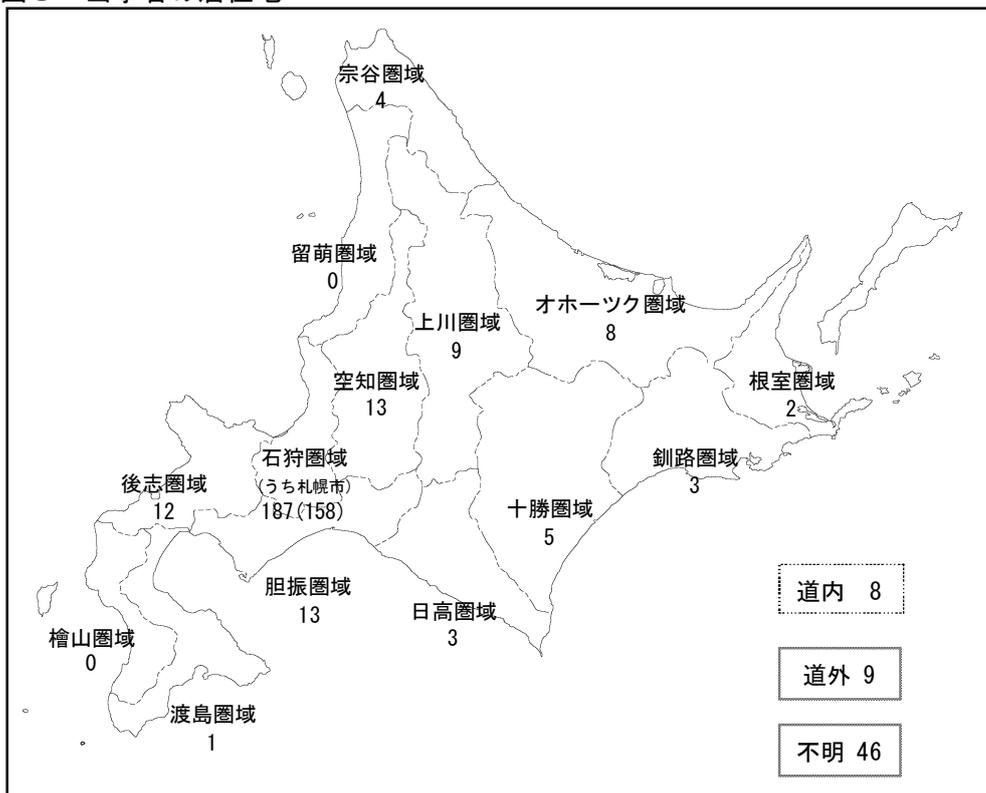
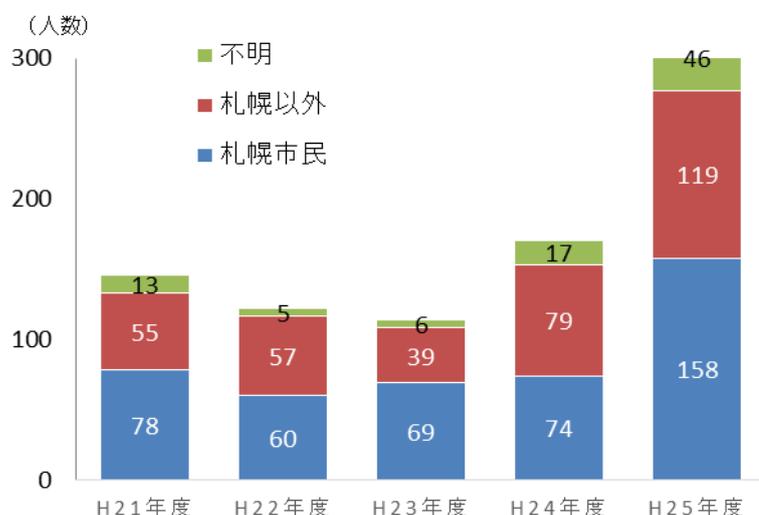


図9 当事者の居住地（年度別）



(9) 相談目的

相談目的別件数（年度別）

(単位：件数)

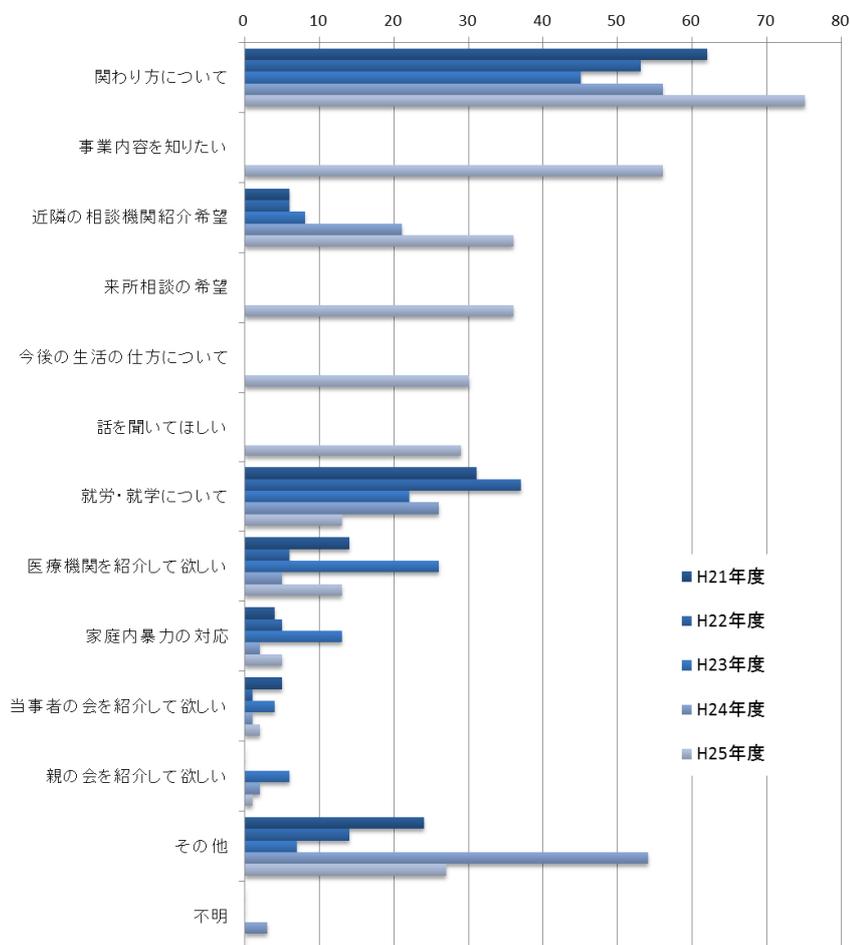
内容	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	構成比(%)	計
関わり方について	62	53	45	56	75	23.2%	229
事業内容を知りたい					56	17.3%	56
近隣の相談機関紹介希望	6	6	8	21	36	11.1%	71
来所相談の希望					36	11.1%	36
今後の生活の仕方について					30	9.3%	30
話を聞いてほしい					29	9.0%	29
就労・就学について	31	37	22	26	13	4.0%	98
医療機関を紹介して欲しい	14	6	26	5	13	4.0%	50
家庭内暴力の対応	4	5	13	2	5	1.5%	25
当事者の会を紹介して欲しい	5	1	4	1	2	0.6%	8
親の会を紹介して欲しい	0	0	6	2	1	0.3%	9
その他	24	14	7	54	27	8.4%	102
不明	0	0	0	3	0	0.0%	3
計	146	122	131	170	323	100%	746

○相談理由は多岐にわたっている。過去4年間と比較して当年度は、「事業内容を知りたい」といった問い合わせや「近隣の相談機関紹介希望」の内容が増加している。

また、「その他」には、「相談の中断」、「他機関からの照会」などがあげられる。

(※平成25年度より相談目的の分類を追加している)

図10 相談目的の推移（年度別）



(10) 他機関への相談経験の有無

	件数	構成比(%)
相談経験あり	207	64.1
相談経験なし	4	1.2
不明	112	34.7
計	323	100

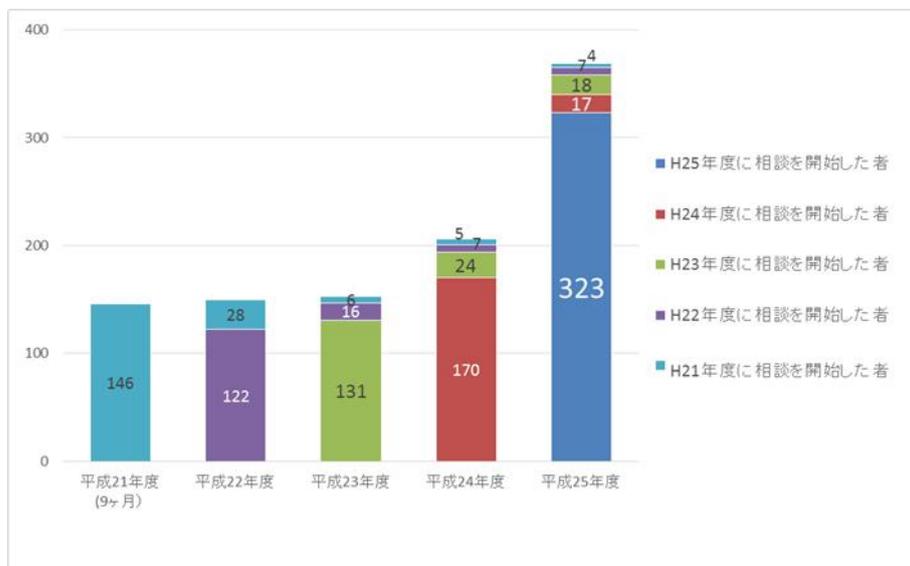
○当センターへ相談する以前に、他機関へ相談している方が 207 件（69.5%）であり、当センターに相談につながる前に、すでにひきこもりについて取り組んできていることが伺える。

○主な相談先は、医療機関が最も多く（135 件）、次いで若者サポートステーション（27 件）、精神保健福祉センター（道・札幌市）（23 件）、保健所（21 件）、区役所・役場（20）、親の会（11 件）、ハローワーク（11 件）などであった。

○「不明」には、問い合わせなどで当事者が確定しない相談が 25 件あった。

(11) 相談の継続性

図 1 1 相談開始年度別相談実人数（年度別）



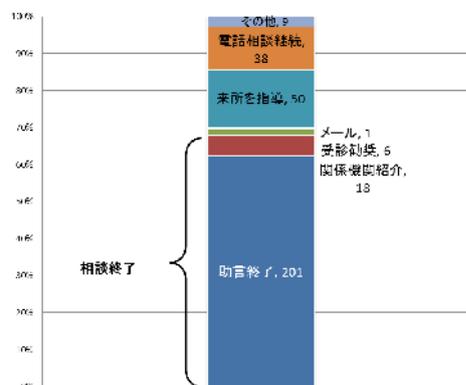
○相談者の約8割は年度内に相談を終結しているが、年度をまたいだ相談も見られている。就労・就学や通院などひきこもり状態から脱したケースもあるが、相談の継続をいかに図り、相談後の転帰の把握することが今後の課題と考えている。

(12) 相談転帰

初回相談の転帰

転帰	件数
終了	226
助言終了	201
関係機関紹介	18
受診勧奨	6
メール返信	1
来所を指導	50
電話相談継続	38
その他	9
総計	323

図12 初回相談の転帰



- 初回相談で終了したケース 226 件 (70.0%) で、そのうち助言終了が 201 件であった。
- 電話相談継続が 38 件、来所が 50 件で計 88 件 (27.2%) が継続相談を要すると判断し対応した。
- 助言終了後も再度、電話相談につながるケースもあった。

(13) ひきこもり相談から当施設デイケアを活用したケース

ア. デイケアへの通所

	人数
平成 25 年度	4
平成 21~24 年度	15
計	19

- ひきこもり相談から当施設デイケア通所につながったケースは当年度 4 名であり、通算 19 名となっている。
- 平成 25 年度に通所開始となった 4 名のうち 1 名は、平成 22 年度からひきこもり相談を継続しており、本人と関わり始めてからデイケア利用に至るにはある程度の期間を必要とした。
- デイケア通所した 19 名のうち、現在 6 名がデイケアから次のステップへ移行している。
(一般就労での障害者雇用 1 名、就労継続支援事業所 A 型就労 1 名、就労継続支援事業所 B 型就労 1 名、就労移行支援事業所 1 名、就学 2 名)
- デイケア通所した 19 名のうち、4 名は治療の必要性が顕在化し、医療機関へつながった。

イ. ひきこもり外来状況

年 度	延べ回数	実人数
平成 25 年度	30 回	10 名
平成 21 年～24 年度	60 回	12 名

○平成 25 年度では、ひきこもり相談からひきこもり外来につながったケースは 10 名であった。

2. 支援ネットワークの構築等

関係機関に対する事業概要説明をはじめ支援機関との支援者連絡会、研修会参加などにより各支援機関との情報共有、連携を行ってきた。

支援ネットワークの構築として、他の研修と連携し、「北海道ひきこもり成年相談センター」の相談会を行った。状況は以下のとおりである。

(1) ネットワーク構築状況

月	日	実施内容	備考
5	22	KHJ親の会「はまなす」会員来所（施設見学）	7名
8	27	スペースおん職員来所	2名
10	15	道議会議員、札幌市議会議員視察	3名
10	17	子ども若者支援地域協議会来所（取材）	2名
12	12	札幌市子ども未来局職員来所	3名
1	31	札幌市子ども未来局訪問	1名
2	24	NPO法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク、全国引きこもりKHJ親の会家族会連合会北海道「はまなす」代表者来所（研修打ち合わせ）	2名
3	5	生活・就労支援センターあつべつ職員来所	2名
3	14	北海道立精神保健福祉センター職員来所	2名

(2) ひきこもり支援者連絡会議実施状況

月	日	実施内容	備考
11	15	ひきこもり支援者連絡会議（根室市）	
11	16	ひきこもり支援者連絡会議（釧路市）	

(3) ひきこもり支援関係者研修会実施状況

月	日	実施内容	備考
6	12	平成25年度 ひきこもり支援機関関係職員等研修会 主催 北海道ひきこもり成年相談センター	インターネット配信 及びDVD視聴
2	24	平成25年度 ひきこもり支援機関関係職員等研修会 主催 北海道ひきこもり成年相談センター	インターネット配信 及びDVD視聴

(4) 講師派遣等状況

月	日	実施内容	備考
7	23	ひきこもり対策推進事業関係都道府県、指定都市担当者会議 (東京都) 主催：厚生労働省	2名 (所長、コーディネーター)
10	10	日本デイケア学会発表	コーディネーター1名
10	19	北海道精神保健福祉士協会道北ブロック研修会 主催：北海道精神保健福祉士協会	コーディネーター1名
11	22	「ひきこもりを考える研修会」(岩見沢市) 主催：北海道環境生活部	2名 (所長、コーディネーター)
11	25	「ひきこもりを考える研修会」(北見市) 主催：北海道環境生活部	2名 (所長、コーディネーター)
6	19	さっぽろ子ども・若者支援地域協議会代表者会議 " 実務者会議	1名出席
7	23	ひきこもり対策推進事業関係都道府県、指定都市担当者会議 (東京都) 主催：厚生労働省	2名参加
8	1	ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会会議(横浜市)	1名参加
8	23	さっぽろ子ども・若者支援地域協議会実務者会議	1名参加
9	25	石狩市 地方企画委員会・ユースアドバイザー一定例会議	2名出席
10	25	石狩市 ユースアドバイザー一定例会議	1名参加
11	5	さっぽろ子ども・若者支援地域協議会実務者会議	1名参加
11	15	ひきこもり支援者連絡会議(根室市)	1名参加
11	16	ひきこもり支援者連絡会議(釧路市)	1名参加
11	18	北海道地域若者サポートステーション連絡会議	1名参加
11	18	北海道子ども・若者支援地域協議会	1名参加
12	18	石狩市 ユースアドバイザー一定例会議	1名参加
12	16	ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会会議(神戸市)	1名参加
1	23	さっぽろ子ども・若者支援地域協議会実務者会議	1名参加
1	27	石狩市 ユースアドバイザー一定例会議	1名参加
2	18	石狩市 地方企画委員会・ユースアドバイザー一定例会議	1名参加
3	10	さっぽろ子ども・若者支援地域協議会代表者会議 " 実務者会議	2名参加

(5) 外部研修参加状況

月	日	実施内容	備考
8	1	ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会・研究協議会 研修会（横浜市）	1名参加
8	23	子ども若者支援セミナー 「生活困窮者支援に係る施策の動向」 主催：札幌市若者支援総合センター	2名参加
9	25	石狩市 ユースアドバイザー養成講習会	2名参加
10	26	ひきこもり学習会 主催：全国引きこもり KHJ 親の会家族連合会・北海道 「はまなす」	1名参加
10	25	石狩市 ユースアドバイザー養成講習会	1名参加
11	5	子ども若者支援セミナー 「子ども・若者のネット依存について」 主催：札幌市若者支援総合センター	2名参加
12	16	ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会 研究協議会 研修会（神戸市）	1名参加
12	18	石狩市 ユースアドバイザー養成講習会	1名参加
1	8	「心の居場所～中高年ひきこもり支援の現場～」試写会 主催：レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク	3名参加
1	9	石狩市 ユースアドバイザー養成講習会	1名出席
1	23	石狩市 ユースアドバイザー養成講習会及び 子ども若者支援セミナー 「相談支援におけるリスク対応」 主催：札幌市若者支援総合センター	1名参加
1	27	石狩市 ユースアドバイザー養成講習会	1名参加
2	18	石狩市 ユースアドバイザー養成講習会	1名参加

3. 普及啓発

(1) 普及啓発実施状況

月	日	実施内容	備考
4	16	北海道新聞取材	
4	23	北方ジャーナル取材	
5	8	北海道新聞記事掲載	
5	10	北海道新聞取材	
5	17	北方ジャーナル記事掲載	
5	20	北海道新聞記事掲載	
6	7	北海道新聞取材	
6	12	北海道新聞取材	
6	21	北海道新聞記事掲載	
3	18	北海道新聞記事掲載	

(2) リーフレットの作成配布

講演会や各種会議などを活用し、ひきこもり本人及び家族に向けたリーフレットを配付した。

月	日	実施内容	備考
1	25	ひきこもりリーフレット及びひきこもりサポーター地域総合育成事業テキスト配布	北海道主催研修会にて、リーフレット200部、テキスト80部を配布
1	30	ひきこもりリーフレット送付	ひきこもり研修会案内先へリーフレット505部送付

(3) インターネット利用（ホームページ）による情報発信

「ひきこもり」に対する理解と支援団体、相談機関などとネットワークを構築するためホームページによる情報発信を行った。

ひきこもり相談ホームページアクセス件数

年 度	件 数	備 考
平成 25 年度	11,431件	
24 年度	8,032件	
23 年度	4,232件	
22 年度	3,220件	
21 年度	3,109件	(9ヶ月分)

○過去4年間と比較して、ホームページアクセス件数が増加している。その要因としては、研修や啓発普及活動によって、ひきこもり成年相談センターが周知されつつあることがうかがえる。